

一般社団法人新潟県臨床検査技師会

2019年度事業計画

会長

渡邊 博昭

2019年度は役員改選期であるが、基本的には事業をそのまま引き継ぎ、とどこおりなく会務を遂行する。新規または重要な事業を下記の通り計画する。

総務部

- ① 引き続き一般社団法人移行に伴っての問題点を検証する。
- ② 引き続き新しい規定および手順書の検証をする。
- ③ 文書発送作業および発送費用の増加が顕著なため、メール配信およびホームページによる情報提供に切り替えが可能かどうかを検証する。

学術部

- ① 第93回新潟県臨床検査学会の企画・運営を行う。
- ② ニューリーダーの育成や職能向上・職能開発、認知症検査に関わる講習会を開催する。
- ③ 検査研究部門活動の助成金申請を20研修会申請する。

広報部

- ① ホームページのさらなる充実を図る。

1. 会務の執行体制

2019年度は役員改選期にあたるため、円滑な業務運営を進めるうえで、各種規定・マニュアル等の周知に努めたい。

また、活動の要である事務局機能は、各県技師会および日臨技との連絡・調整の場として、更なる会員サービスの向上に努めたい。組織強化の面からは、日臨技、北日本支部、新臨技支部、会員各位と協力しながら情報交換を図り、一人でも多くの会員から技師会の意義を感じ取ってもらえる環境・体制を整えたい。

2. 諸会議

1) 理事会・常任理事会

連携を密にするためにも、会議時間の短縮や運営方法を再検討しながら、総会に次ぐ議決機関として理事会・常任理事会を開催したい。

2) 三役会議・各部会議

諸会議の立案や各種業務内容の検討・調整を図るため、必要に応じて適宜開催する。

3) 各種委員会

本会活動の要としての役割を担っており、本年度も更に活発に運営していきたい。

災害支援マニュアルにある災害支援メーリングリストは、災害時の支援活動や会員の安否確認に威力を発揮できるものであり、会員登録者を増やしていきたい。

3. 組織対策

1) 臨床検査セミナー

通常総会と同時開催する臨床検査セミナーは、技師会事業として定着している。最新の医療トピックスや臨床検査技師の卒後教育等の内容で企画し、自己研鑽の場として今後も積極的に開催していきたい。

2) 各支部との連携

各支部持ち回りの新潟県臨床検査学会開催については、会場確保および参加人数等の問題もあり、第91回から新潟市で開催している。これにより、更なる学術部と支部との連携を強化するとともに、より多くの会員参加を募り、本会の事業方針の展開と臨床検査の発展を目指したい。

3) 入会対策

益々厳しくなる医療情勢ではあるが、職能団体としての機能をさらに発揮するためには組織拡大と成熟が重要であり、各支部、各施設の理解と協力を得ながら新入会員を確保していきたい。

また、臨床検査技師のさらなる地位向上および職域拡大を進めるためにも、臨床検査技師連盟への入会促進に積極的に働きかけていく。

4. 公益活動（地域保健医療活動）

一般社団法人として、県民の保健・医療・公衆衛生の更なる向上を目指すべく、臨床検査技師の社会貢献に取り組み、日臨技の事業や健康展、関連職種団体との連携強化を進め、本年度も地域保健医療活動に積極的に参画していく。

5. 求人情報の提供

会員へは新臨技ニュースやホームページ等で求人情報を提供したい。

6. 表彰関係

1) 篠川至賞

2019年度で第37回となる篠川至賞は、その制定主旨により、各支部からの推薦者の中より篠川至賞選考委員会の審査を経て表彰されるものであり、会員の励みにもなっている。検査研究部門からも情報協力いただき、各支部からの積極的な推薦のうえ表彰する。

2) 会長表彰

特別功労表彰、永年会員功労表彰は、新臨技表彰規定に基づき、それぞれの基準に該当する者について表彰委員会の審査を経て、毎年の通常総会において表彰する。

3) 生涯教育奨励賞

多くの会員の生涯教育および学術活動への参画と活性化を求め、分野に関わらず最多得点者の上位3名を表彰する。

4) 生涯教育新人賞

臨床検査教育の場としての研修会等への参加を通じ、更なる技師会活動への参画に期待し、分野に関わらず20代会員の最多得点修了者を表彰する。

学術部	副会長 桑原 喜久男
-----	------------

2019年度活動計画

第93回新潟県臨床検査学会を11月16日（土）、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにて開催する。多くの会員から一般演題発表をお願いしたい。検査研究部門は新潟県臨床検査学会において教育セミナー等の企画、運営を担当いただく。精度管理は日臨技のシステムを用いて新臨技 HP にて結果の閲覧等、事務手続き等の簡素化を進めたい。検査研究部門研修会や支部研修会を通じて日臨技の生涯教育推進事業20研修会の申請を目指す。また、日臨技が推進する各種講習会の開催準備を進める。

1. 学会

桑原 喜久男

第93回新潟県臨床検査学会を11月16日（土）、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターを会場に開催する。一般演題を多くの会員からご発表頂けるようにお願いしたい。第93回では教育講演を2グループ程度に分け、2部門の講演に参加できるように取り組みたい。また、特別企画には臨床検査技師を取り巻く状況をご理解いただける内容に取り組んでいきたい。賛助会員からの機器展示やランチョンセミナーも募集し、多くの会員からご参加いただける学会へとしたい。

2. 検査研究部門

中村 岳史

検査研究部門が企画運営する研修会は、技師会における重要な活動の一つである。医療制度や検査技術など、日々変化していく医療現場においては新たな知識や技術を習得し日々の業務内で実践していくことが極めて重要であるため、検査研究部門が企画運営する各種研修会が担う役割は大きい。

検査研究部門は、生物化学分析部門、臨床一般部門、臨床血液部門、臨床微生物部門、輸血細胞治療部門、病理細胞部門、染色体・遺伝子部門、臨床生理部門（神経生理分野、呼吸・循環生理分野、超音波分野）、臨床検査総合部門の9部門3分野で構成され、各部門の活動費は12万円、各分野は8万円とする。研修会参加費は、当事者負担の原則の下で過剰な負担が及ばない程度で運営経費を補完する。非会員の研修会参加費は会員の3倍とし、会員利益と活動費補完をはかる。また、参加は会員優先とし、特に人気の高い実習形式研修会では会員に不利益が生じないものとする。

研修会の内容は、若手技師向けの基礎的内容から専門性を高める内容、最新の情勢を踏まえた内容や認定資格取得教育など、様々な状況下にある会員に有益で魅力的な研修会をバランスよく開催できるよう体制を整備し、企画運営にあたる。また、講演に加えて、実習形式による研修会を推進し、知識面・技術面の両側面でのレベルアップを目指した研修会の企画を奨励する。技術や知識が複数の分野に係る内容に関しては、複数部門での合同研修会を企画するなど各研究部門が協力することで、幅広い知識や技術を習得できるよう、会員にとって魅力ある活発な学術活動を展開していきたい。

3. 精度管理事業

坂西 清

本事業は新潟県医師会が新潟県から委託を受け、新潟県臨床検査精度管理協議会を設置して推進している事業である。本会としては、地域医療への貢献と会員の技術向上という点から重要な事業であるという位置づけで積極的に協力していく。

2019年度も臨床化学、微生物、血球計算、一般フォトサーベイをさらに充実させ実施を予定している。昨年度より医療法が改正され、作業手順書、作業日誌などの整備が必要とされる中、精度管理から精度保証という観点を考慮した精度管理事業を展開していきたい。また日臨技の臨床検査室精度保証認証制度・共用基準範囲についても多くの施設の理解が得られるよう啓発を進めていきたい。

4. 生涯教育

近藤 善仁

生涯教育研修制度は、臨床検査技師の知識や技術水準の維持・向上を目的とし、会員の自発的な学習を組織的に援助する制度である。会員は定められた履修期間・カリキュラムを基に履修点数を取得する。また、ボランティア活動や臨床検査の普及のための啓発活動などに対して生涯教育行事登録を行い、活動を支援している。今期は役員改正の年であるため、日臨技情報総合システム（JAMTIS）の操作方法および「生涯教育推進研修会助成金」の申請手順の引き継ぎを行い、不明な点は担当理事がサポートをすることにより、確実な運用と助成金受領の支援を行っていく。

広報部

副会長 坂西 清

2019年度も新臨技会誌、新臨技ニュース、新臨技ホームページの3本柱での運営を通して全会員へ向けたレスポンスの良い情報を例年通り安定提供したい。また、ホームページの情報発信においては会員に有益な情報をいち早く提供していきたい。会誌においては様々な企画を取り入れながらも学術重視の会誌を目指していきたい。県理事、各支部理事、会員全員で情報の共有化を尚一層強化するためにも、新臨技会誌、新臨技ニュース、新臨技ホームページを充実させていきたい。

1) 新臨技会誌

神林 真弓

会誌発行は311号から314号までの年4回季刊発行を予定する。

〔講義・研究〕引き続き多分野に渡り基礎的内容から最新のトピックスに焦点を当てて掲載していきたい。

〔研修会参加報告〕今年度も参加会員の協力のもと、情報提供や会員の研鑽の頁としたい。

〔ペンリレー〕〔新入会員紹介〕〔検査技師として～私の奮闘記～〕

会員同士の親睦をはかり、多くの方が参加できるツールとしたい。

〔公益活動報告〕多くの会員に公益活動の重要性を知っていただき、ボランティア活動にも参加していただけるような内容にしたい。

〔認定検査技師制度〕認定取得者からの経験談やアドバイスを掲載することで、新たに認定を取得しようとしている多くの会員のスキルアップを支援していきたい。

〔施設紹介〕臨床検査技師の活躍の場としてあらゆる地域と施設の紹介していきたい。

〔学会参加報告〕これから学会発表を考えている人たちの参考となるよう、学会発表することの意義や思いなどを掲載していきたい。

2) 新臨技ニュース

佐藤 卓

理事会議事録、組織活動、研修会案内、求人情報など速報性・実用性のある内容を掲載していきたい。また、今後も広く会員に読まれるような読みやすいレイアウトを心がけるように、工夫していきたい。発行目安は月1回とし、理事会終了後、速やかに発行できるよう努めたい。

ホームページは研修会案内・各支部活動・お知らせ・求人情報などをリアルタイムに掲載し、ネット環境があれば、いつでも閲覧可能となっている。昨今のスマートフォンの普及により、サイトへのアクセスも増加し、ページ内容への期待も増えていると考える。今後も有益な情報提供ができるよう新規コンテンツ（スマホ用サイト）などを検討して活発な運用を目指していく。また、当技師会は、大規模災害に備え災害時緊急連絡システム（メーリングリスト）を構築しているが、登録者が伸び悩んでおり会員の10%も満たない現状である。引き続き一人でも多くの会員の登録をお願いする。（詳細は新臨技ホームページ参照）